



この地に赴任して四年目を迎えました。宍道町は、山陰自動車道、国道9号、山陰本線などが走る交通の要衝です。今まで、人口八百人から四千人の町村ばかりで勤務してきた私にとっては、比較的にぎやかな印象ですが、診療所がある来待(きまち)地区はのどかな山村風景が残り、高齢化率が高く、医療に恵まれ

大切な訪問診療

しじみの産地で有名な宍道湖。夕日の美しさもさることながら、中国山地も近くまで迫り、四季を通じて湖面、山のコントラストで私たちの目を楽しませてくれます。私の住む松江市宍道町はこの宍道湖の西南部にあります。

培った経験生かし精進

ているとは言えない地域です。診療所以外に医療機関はな

く、小児から高齢者まで、地域住民のかかりつけ医として活動

しています。外来診療の合間に、寝たきりなどの患者さんの家を

やまだ けんじ
山田 顕士 15期生1992年卒



松江市国民健康保険来待診療所を中心に公民館、健康センタープールなどが設置されている

松江市国民健康保険来待診療所

【私の勤務地】旧宍道町は2005年に松江市と合併した。来待診療所は松江市中心部から車で約30分で、宍道湖の南方にある。対象人口3000人の旧宍道町来待地区を主な診療圏域とする。この地区の産物の来待石は石灯籠(とうろう)の原石として名高い。

診察所は県東部に位置している。これまでの赴任地に比べれば、近隣の医療機関、体育館・プールといった健康増進施設、医師や保健師などのマンパワーに恵まれています。住民にとっては医療、福祉施設の選択肢が多いことは良いことかもし

難しい情報共有

抱えます。離島もあり、県内でも医療を取り巻く環境は大きく異なります。県東部は大病院など、県西部や離島は大病院が多く、医師数が少なくハンディを抱えます。

訪問することも大切な仕事です。「先生、お茶飲んでいってください」「うちで取れた野菜を持って帰らんかね」などと声を掛けられ、ほのぼのとした雰

振り返ると、貴重な体験だったと思います。今後も住民とのコミュニケーションを大切にしながら、近隣の医療機関や行政、福祉施設などとの連携も密にして、今まで培った経験を生かして精進していく所存です。

(次回予定は鹿兒島県)

私は、義務年限内に離島から山間部まで、いろいろな生活スタイルの土地に赴任しました。多岐にわたる業務はまだまだ多いように感じます。

れませんが、住民の健康を管理する立場でみると、小規模の町村とは違った労力を要します。最近では市町村合併や医師不足で、今まで頑張ってきた地域が合理化、集約化の名の下に、保健、医療、福祉サービスの質の低下を余儀なくされることもあります。住民の有機的な情報共有でさえ難しく感じられるようになりまして。どの医療機関にかかればよいか分からない人や、健康については、ほんらんと情報正しく取捨選択できず流される人もいます。田舎が多少発展しても、自治医科大学卒業生に課された責務はまだ多いように感じます。